

# 田んぼで、ドジョウ の天然養殖！ その食品を世界へ！！

DJプロジェクト株式会社 (2024年9月 設立)

代表 嶋崎 成  
Shimazaki Akira

- \* ドジョウ養殖事業
- \* 休耕田を活用した養殖
- \* ドジョウの食品化
- \* ドジョウと村 - 町興し企画
- \* ドジョウ関連の6次産業化



# < 日本 の 農 山 間 地 域 の 危 機 >

高 齡 化、過 疎 地 化



食 糧 自 給 率  
カ ロ リ ー ベ ー ス  
3 8 %

山 間 部 ・ 中 間 農 業  
地 域 大 部 分 の 米 農  
家 は 赤 字 。 反 収 は、  
1 0 万 円 も . . .

先 祖 代 々 の 田 畑 を 何 と か し た い が . . .

我 々 が 提 案 す る の が、

水 田 を 活 用 し た  
ド ジ ョ ウ の 養 殖 ビ ジ ネ ス で す ! !



# ドジョウの養殖を オススメする

## 7つの理由

日本各地の里山には、オタマジャクシ、ドジョウなどの各種水生生物が身近に存在しています。

しかし、高度経済成長を急ぐ中、生物多様性は失われて行き、これらの生物が大きく減少し絶滅の可能性さえあります。

美しい日本の原風景を未来に残しながら、経済発展を目指す事が、本事業の使命であると考えています。

## その1：農地所有者や、土地を借りられる方なら手軽に始められる

米農家、農業を卒業された方、農地所有の方なら、養殖の特別な技術が無くても、手軽に参入できる事業です。



## その2：イニシャルコスト・ランニングコストが低く、収益性がある



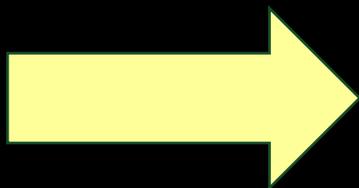
初期投資が低く、安定した売上出口がある。

- \* イニシャルコスト
  - ・ 土堀、防水シート、防鳥ネット等の初期投資は必要となるが、他に掛かるコストはほとんど生じない。
  - ・ 稚魚の仕入れ代金（DJプロジェクトから支給可能）
- \* ランニングコスト
  - ・ 餌代、出荷時の包装材、その他
- \* 収益性
  - DJプロジェクトの買い取り価格
  - 1kgあたり¥3,000円～¥3,500円(全量買い取りシステム)

### その3： 成長が早く 養殖が簡単



放流サイズは3cm~4cm  
一反当たり約2万匹~3万匹



出荷サイズは10cm~15cm 1匹当たり約10~15g 買い取り価格¥3,500/kgの場合

年1度の出荷でも1反70万円程の売り上げも可能となる

約4か月で出荷サイズにまで成長する為、年2回の出荷も可能

### その4： 管理が容易で、明確な出口

水を切らさないように出来る水田であれば、日々の作業は餌やり程度の軽作業のみである。その為、高齢者でも日々の管理は十分可能で、雇用対策にもなる。過疎地で労働人口が少ない地域でも事業継続が可能である。

また、DJプロジェクトが全量買い取りをする為、販売先に困る心配もなく、耕作放棄地対策としても打ってつけのビジネスとして、手軽にスタートが可能です。



弊社が作った、奈良のドジョウ池

## その5：競合相手が少なく 社会性を持つ付加価値ビジネス

### ドジョウ養殖の現状



- 島根県安来市で4トン程、大分県宇佐市で20トン程の養殖が行われていますが、その他はほとんどが小規模であり、市場に出回るドジョウの大部分は中国産である。
- 中国産ドジョウの卸売市場での流通価格は¥4,500/kg程度となっている。
- 国産ドジョウの場合¥6,000～¥7,000/kg程度での販売が見込まれる。
- 現在、ウナギの稚魚不足による価格高騰を受け、代替商品としてのニーズも考えられる。
- 日本でも昔からドジョウ汁などで食す習慣はあるが、韓国では一般的な食材であり、ニーズが非常に高い為、販売チャンネルの一部を韓国向けにすることで、マーケットの飽和を防止することが可能である。
- 栄養価が高く、特にカルシウムはウナギの10倍程度あり、高付加価値化が容易です。

**休耕田や過疎地も再生し、健康食としてのニーズを増大させ、高付加価値商品としての販売が可能**

## その6：観光資源・教育プログラム等 幅広い活用



< その他 >



\* 鑑賞用どじょう

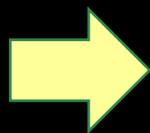


\* 釣り餌にも

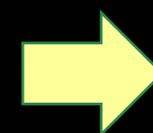
近年、観光型農業や、田植えや稲刈り体験なども多く、ドジョウのつかみ取り体験なども取り入れ、村興しや食育、環境教育のツールにもできる。

## その7：ビジネスとしての将来性が有望

各種  
どじょう  
料理の  
食材として



どじょうの  
各種  
加工食品へ



高付加価値な  
JAPAどじょう  
健康食品へ！！



# ● 事業展開の流

- \* 2024年
- \* 奈良1,2,3号池  
スタート
- \* 近畿センター  
準備
- \* 1次流通  
スタート  
(活魚)

- \* 2025年  
大阪万博向け  
商品化・爆発
- \* 全国へ事業  
オープン
- \* 1次食品販売

- 2026年～  
養殖全国化へ  
事業オープン
- \* 要望地域との業務提携
- \* 全国からの買い取り  
システム構築
- \* 日本における市場確保

- 量産体制  
付加価値商品化
- \* 韓国でのプレミアム  
商品化
- \* カンボジアなど無農薬田  
での量産体制
- \* 高付加価値健康食品化

- 田んぼが無い  
国への  
販売・流通
- \* 健康食品として  
世界各国へ宣伝
- \* 欧米各国への販売
- \* どじょう栄養カルウム  
製品の世界化

どじょう  
天然養殖池の  
モデル化

近 畿  
どじょう  
センター  
展開



田んぼ養殖の  
拡散・拡

カルシウム  
栄養食品化

商品の  
量産化

田んぼの無い  
国への販売



日本国カルシウム普及計画